2022 ULTRA PROJECT

The Projected Image Laboratory | 山城大督

■プロジェクト内容（予定）

映像メディアを用い、その場でしか体験できない《時間》を作品として展開するアーティスト・山城大督によるプロジェクト。ウルトラファクトリーのスタッフと連携しながら、オンラインでの教育プログラムをはじめとする様々な映像コンテンツを企画・開発し、配信していきます。プロジェクト参加学生は、山城と共に技術習得をしながら、コンテンツの企画、開発、実験から映像制作、配信までを行います。3期目となる2022年度は、山城が2022年9月に発表する新作インスタレーションの制作過程にも関わります。

実施期間	2022年5月－2022年12月
活動場所	ウルトラファクトリー他
活動日	2週間に一度の定例ミーティングを予定しています。 （曜日時間については学生と相談）

■スケジュール

4月12日（火）	エントリー〆切（13時まで）
4月15日（金）	書類選考結果をメールにて連絡
4月21日（木）	18:45～面接@ウルトラファクトリー（書類通過者全員）
5月12日（木）	18:45～キックオフミーティング@ウルトラファクトリー

※上記は現時点での予定です。変更の可能性もありますが、
各自スケジュールは空けておいてください。

■単位認定

あり

※通年の活動参加で、プロジェクト演習科目単位（2単位）を申請予定

■募集人数

6名程度

■応募方法

エントリーフォームより必要事項（志望動機／自己PR／これまでやってきたこと／使用できるアプリケーション）を入力し、応募してください。書類選考でメンバーを決定し、ディレクターとの面接を経て、キックオフミーティングを行います。

※エントリーフォームへは、特設サイトプロジェクト一覧の末尾にある【ウルトラプロジェクトのエントリーはこちら】から

■面接について

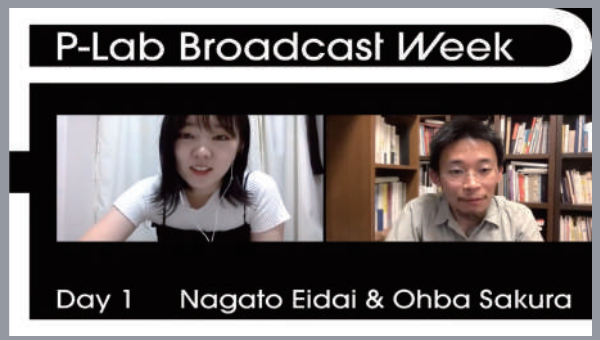
面接詳細は書類選考後に、メールにて連絡します。

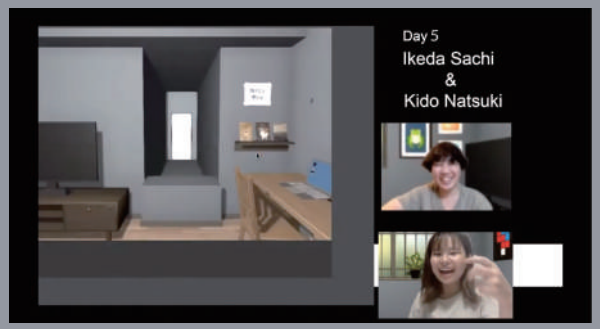
■お問い合わせ

不明な点や質問は、ウルトラファクトリー オフィス（清水・浦田）まで。
TEL　075-791-8482　Email ultrafactory@office.kyoto-art.ac.jp

ULTRA FACTORY

世界的な新型ウィルスの感染拡大をきっかけに、私たちは今まで以上にオンラインで集い、語り合い、体験を共にするようになりました。
そんな状況で2020年度より始動した、映像作家の山城大督による「The Projected Image Laboratory」。
プロジェクトでは、様々な映像コンテンツの開発や実験、制作から配信までを行います。オンラインでできることを山城とともに考え、新しいことにどんどん挑戦し、アイデアを実現していける、そんな学生メンバーを大募集！





The Projercted Image Laboratory

The Projected Image Laboratory ディレクターについて

山城大督｜やましろだいすけ

1983 年大阪生まれ。美術家・映像作家
http://the.yamashirostudio.jp/

映像メディアを用い、その場でしか体験できない《時間》を作品として展開する。アートユニットNadegata Instant Party を結成し、市民参加型プロジェクトを全国各地の美術館、芸術祭で発表。また、山口情報芸術センター[YCAM] にてエデュケーターとして、オリジナルワークショップの開発・実施や、教育普及プログラムのプロデュースを行う。多摩美術大学、愛知大学などでのオリジナルワークショップを行うなど、人材育成事業にも数多く携わっている。2013 年には1 年間に渡って映像表現を再考するプロジェクト「東京映像芸術実験室」を展開し、企画内で制作発表したインスタレーション作品《VIDERE DECK ／イデア・デッキ》が第18 回文化庁メディア芸術祭審査委員会推薦作品を受賞。「プロジェクト／出来事とドキュメント／記録」における映像の可能性について日々探求する。2020年度より、京都芸術大学アートプロデュース学科専任講師。

次のページで作品紹介

▽ 映像ドキュメント・コーディネーター／エデュケーターとしての主な仕事（一部）

ワークショップ開発「walking around surround」
（山口情報芸術センター[YCAM]）

長期市民ワークショップ
吉岡洋「meet the artist 2008｜本をつくる」企画
（山口情報芸術センター[YCAM]）

あいちトリエンナーレ 2016 コンセプト＆ドキュメントムービー
アートディレクション

《VIDERE DECK ／イデア・デッキ》2013年

記録映像YouTubeリンク：https://youtu.be/DD1mhOJOY48

オブジェクト、台詞・音楽を発する6台の音響スピーカー、空間を演出する数十台の照明機器が、コンピューター・プログラミングによってシンクロ制御・構成・再生された、13分間のタイムベースドメディア作品である。ジャック・ラカンが提唱した、人間形成の一時期をさす概念「鏡像段階」を手掛かりに、「人がオーディオ・ビジュアルを認識し、他者と自我の関係性を認識してゆく過程」をモチーフとして、抽象的な物語が構成される。鑑賞者は、カーテンに囲まれたインスタレーション空間に入る事により、一本の映像作品を鑑賞するように、空間そのものを体験する事となる。

—

監督：山城大督
出演：梶谷宣子、澁谷晃太、高野萌
音楽：佐伯真有美、蓮沼執太、安野太郎
会場デザイン：小野田裕士、映像システム：岩田拓朗、時里充
テクニカルアドバイザー：大庭圭二［株式会社 RYU］
グラフィックデザイン：中西要介　施工：十亀脩之介、潮上聡史

《HUMAN EMOTIONS / ヒューマン・エモーションズ》2015年

記録映像YouTubeリンク：https://youtu.be/WgyZETCG2Fs

《HUMAN EMOTIONS／ヒューマン・エモーションズ》は、会期直前に山城が用意したシチュエーションに1歳と5歳と7歳の3人の子どもたちを登場させ、複数台のカメラで撮影したものを「再生可能な空間」として展示した映像インスタレーション作品である。本作品について山城は、「子どもというまだ社会をそんなに知らない人たちで社会をつくってもらう。 いろんな人たちが混じって過ごす時間に、僕らがまだ見たことにない『社会』が生まれるかもしれない。そこに生まれる感情を撮りたかった」と話す。 そのために、出演者として、1歳から7歳という自我の芽生えや社会性を身につけていく初段階ともいえる月齢の子どもたちを選んだ。本インスタレーションでは、状況を円滑に進行させようとする意志を持つ身体と、言語を獲得しつつある身体との接触で生まれた感情の個体差が記録されており、実際に行われたシチュエーションと同時間軸で進行していく。

—

監督：山城大督
出演：高橋樟馬、ヒル アラーニ けい、山城世界
サウンド・パフォーマンス: 中川裕貴
音楽：安野太郎　音響：伊藤良平
撮影：浅野豪、有佐祐樹、小崎高司、嶋田好孝
映像システム：岩田拓郎、時里 充

《Synesthesia Garden/シナスタシア・ガーデン》 2019年

タイムベースド・メディアインスタレーション , 13分

美術手帖レビュー： https://bijutsutecho.com/magazine/review/20370